

ドキュメンタリー映画「毎日がアルツハイマー」監督が語る

認知症をハッピーに

兵庫・西宮市で先日、「かいご学会」が開かれた。ここで、毎週月曜日連載「親をボケさせない介護」の丸尾多重子さんから数人の放談が行われたが、登壇者のひとり、関口祐加監督の話は、介護に不安を抱いている人に、「別の見方」を提示するものだった。関口監督は、認知症の母親の在宅介護のために、29年間住んだオーストラリアから2010年に帰国した。

「どなたさん？」と聞いた母に「レディー・ガガです」と孫

「認知症を疑って最初に、それ以来1年間、なければいけない」と一連で行った町医者が母 医師を拒否。周囲は寝る 方に言う。しかし、母に、「100-3は？」ばかりの引きもつな は嫌がる。そこで思ったと聞いたんです。認知症、風呂にも入らな なのは、「WHYの法則」を診るテストのひとつになりました。 が必要なのではないか、 なんですが、その瞬間、 医師は「閉じこもりは ということだった。 ライドの高い母がムッと くない」「外を歩かせ、 母は引きこもりを



関口監督(右)とお母さん

「認知症を疑って最初に、それ以来1年間、なければいけない」と一連で行った町医者が母 医師を拒否。周囲は寝る 方に言う。しかし、母に、「100-3は？」ばかりの引きもつな は嫌がる。そこで思ったと聞いたんです。認知症、風呂にも入らな なのは、「WHYの法則」を診るテストのひとつになりました。 が必要なのではないか、 なんですが、その瞬間、 医師は「閉じこもりは ということだった。 ライドの高い母がムッと くない」「外を歩かせ、 母は引きこもりを

「どなたさん？」と聞いたら、私は「隣の家のおばさんです」。孫は「レディー・ガガです」。

「何を起こして、おばあちゃんに何か分らないか？」と返して、

「おばあちゃん、おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「どなたさん？」と聞いたら、私は「隣の家のおばさんです」。孫は「レディー・ガガです」。

「何を起こして、おばあちゃんに何か分らないか？」と返して、

「おばあちゃん、おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

「おはよう」と返して、

**嫌なことに、ゼーんが
忘れるから、いま幸せ**

関口監督の母親は、21歳で介護施設に入居している。リド映画「毎日がアルツハイマー」で紹介しており、現在FINAを撮影中だ。

PC・スマホ・タブレットで手軽に読める

日刊ゲンダイ 電子版

詳しくは [gendaiオンライン](http://gendai.net) Q検索

<http://e.gendai.net>